

第1回 どうして総合診療なの？

林 幹雄 2012年総合医コース修了、指導医、筑波メディカルセンター病院 総合診療科
 山本 由布 総合医コース 後期研修医4年（神栖済生会病院 内科）
 松島 瑞穂 総合医コース 後期研修医1年（総合病院水戸協同病院 総合診療科）
 吉田 泰久 筑波大学附属病院 初期研修医1年
 宮本 侑達 昭和大学医学部6年生
 浜野 淳（司会）2008年総合医コース修了、指導医、筑波大学附属病院 総合診療グループ

浜野 総合診療、家庭医療に興味を持ってくれる人は増えていますが、今日は実際に総合診療、家庭医療の研修を終えられて頑張っている先生や研修中の先生、学生のみなさんに**総合診療、家庭医療を目指すきっかけとか興味を持つきっかけは何だったのか**を聞いてみたいと思います。

まずは後期研修を終えて家庭医療専門医として筑波メディカルセンター病院で勤務されている林先生はいかがですか？

病気だけでなく家族全部を見る家庭医との出会い

林 僕は学生のころに大学の近くにあった、奈義ファミリークリニックの先生がモデルです。**家庭医の先生で、子供から大人まで診えて、病気だけでなく家族全部を見る**というのがモデルになっています。



林 幹雄

浜野 学生のとときに奈義ファミリークリニックで実習して、家庭医療に興味を持つようになったのですか？

林 そうですね。診療所の研修がきっかけです。

浜野 続いて、今年から筑波大学の総合医コースに入って後期研修を始められた松島先生はいかがですか？

気軽に相談できる存在

松島 私の医者になろうと思ったきっかけは、地元のお医者さんによくお世話になっていたことです。お世話になっているうちに、周りのおじいちゃんやおばあちゃんとか、**周りの人たちの相談に気軽に乘れるような存在になりたい**と思うようになりました。

学生、研修医時代は、これも面白い、あれもと、いろいろ

な分野で分からないことが多く、もっと勉強したいと思いました。臓器別専門医に進もうかとも思いましたが、それよりはまだまだ知らない分野や、触れ合っていない分野があるので、もっと全般的に知識を積み重ね

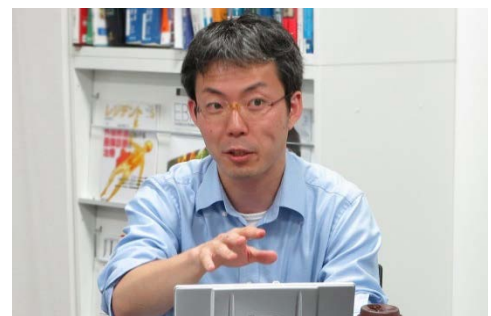


松島 瑞穂

ていって、総合診療医、家庭医として成長していけたらと思い、ここでの研修を始めました。

浜野 かかりつけの先生にいろいろな相談をして、問題が解決したり、安心したりしていたという思い出があるのですか？

松島 はい、そうですね。



浜野 淳

浜野 後期研修の最終学年を迎えた山本先生はいかがですか？

一番近くにいるイメージ

山本 私も松島さんと似ています。昔から小児科や内科の近くの先生には結構かかっていました。私は



山本由布

こう見えても昔は引っ込み思案でした。親の後ろに隠れているような子供でした。そんな弱い子供にも優しくしてくれるお医者さんというのがロールモデルでした。

医学部に入ろうと思ったきっかけは、精神科医になりたかったからです。精神科医には、いろいろな相談に乗ってくれるというイメージがありましたが、そのイメージに一番近い、**一番人の近くにいる、どんな**

相談でもできる家庭医というカテゴリーがあると知ったのが大学3年生のときです。福井大学の紅谷先生という家庭医の先生がいらっしゃいまして、その先生が勉強会をされるということで顔を出してみ、それが総合診療、家庭医療を志すきっかけになっています。

浜野 なるほど、自分のイメージに一番近い家庭医という存在を知り、モデルになる先生に出会えたことがきっかけだったのですね。

山本 はい、そうですね。

医療において大切な事に 気づく総合診療科研修

浜野 それでは、初期研修を開始されたばかりの古田先生はいかがですか？**総合診療の研修を希望されて筑波大学での総合診療科研修を受けられた**ようですが？

古田 はい、僕はまだ専門の診療

科をどこにするか全く決まっていない状態です。学生するときから、地域実習で診療所を回らせていただいた経験もありましたし、また、6年生のときに海外の総合診療科を見る経験もさせていただきました。それで、総

合診療に対する興味が少しずつ湧いてきたので、初期研修を開始する時期に研修させて欲しいとお願いしました。



古田泰久

浜野 そうですか、初期研修の最初に研修したいと希望されたのですね。実際に研修していかがでしたか？

古田 やはりどの診療科を専門に選んだとしても、患者さんの話を聞いて、何が起きているのかを考え、患者さんとの良好な関係をつくることは大事だと感じましたし、**医療において何が大事なのかとか、そういうことが少しずつ見えてきて、本当に有意義な研修生活を送れた**と思っています。

生活に踏み込める医療

浜野 初期研修の滑り出しが有意義なものになって、我々としても、とても嬉しいですね。

昭和大学で学生実習を通じて総合診療、家庭医療と出会われた宮本君はいかがですか？

宮本 実習を通して臓器別専門も面白いと思いましたが、特に関心を持ったのはリハビリテーションです。ベースとしてすごく臨床の知識があり、それに加えて患者さんの生活を意識していることが印象に残っています。退院後の生活はこういう感じだから、介護申請とか、家屋改修もしなければいけないとか、先生が話されているのを聞いて、そういう**生活の部分まで踏み込んでいければもっと良い医療ができる**のかなと思いました。

浜野 リハビリテーションを通じて、生活まで踏み込んでいける姿がいいなと思ったのですね？

宮本 はい、それで去年の夏にいろいろな病院を回ってみて**臨床的な知識に加えて生活まで踏み込んでいける専門科として総合診療、家庭医療が最も自分がやりたい、関心がある分野だ**と思いました。



宮本侑達

浜野 皆さんのお話を聞いていると、きっかけは様々ですが、共通しているのは、**医療だけでなく生活のことまで含めていろいろと相談してもらい、きちんと対応できる医師になりたい!**という思いで、総合診療、家庭医療を選ばれたのですね。きっと同じような思いで専門分野を考えている医学生、研修医の方も多いと思うので、皆さんの参考になると嬉しいです。 //